nohistochemical localization を調べておりますでしょうか。

② 培養細胞においても、frozen cell block method

を使用した protein の intracellular localization の報告がございました。

第53群 診断・検査 II (253~256)

253. 習慣性流死産などにおける均衡型転座染色体の意義とその子における転座染色体の分離に関する研究 (大阪大)

末原 則幸, 尾崎 公己, 倉智 敬一

目的: 習慣性流死産の既往をもつ夫婦や既に染色体異常児をもつ夫婦において均衡型転座染色体が見い出されることがある。しかもこれら転座保因者から不均衡型転座染色体保有者が出現する割合は、トリソミー児出現頻度に比べてはるかに高いものと推定されるが、妊娠中期で転座染色体異常児の出現する割合は知られていない。習慣性流死産夫婦などにおける均衡型転座保因者の出現率と均衡型転座染色体の分離について検討を加えた。

方法: 習慣性流産の既往をもつ夫婦などに染色体分析を行い、均衡型転座染色体を検索し、見出された症例について妊娠中期に羊水穿刺を行い、培養羊水細胞を用い胎児の染色体分析を行った。分析は、ギムザ染色とGバンド法を用い、一部の症例にはQバンド法を併用した。

成績: 今回見い出された均衡型染色体構造異常12例のうち、習慣性流産のための染色体分析により発見されたものが4例であり、既に染色体異常児を出産し、その後に発見された症例が7例であった。なお7/12相互転座保因者の1例では、通常型ダウン症児を有しており、転座染色以外の染色体の不分離にも関与することが推測された。これらの転座保因者の出生前診断の結果、不均衡転座が見い出されたのは、D/G転座の1件であるが、全体の11%と高率であり、他にD/G転座で2件、相互転座で1件の均衡型転座染色体を見出し、羊水分析の重要性を確認した。

独創点: 均衡型転座保因者の遺伝的予後に関し、妊娠中期での羊水分析により検討した。

質問 (慶応大) 田村 昭蔵

① われわれも流産例両親の染色体を検索し、10数例の均衡型転座保因者を見出し、昨年の東京地方部会で報告した。御発表中に reciprocal translocation 症例の少ない印象をもった。御発表症例の保因者の夫側、妻側別の

例数をお伺いしたい。

② 習慣性流産例の頻度は何回以上の流産例について算出されたものか、また、対象症例を全例、無選択、継続的に検索されたものか如何。

回答 (大阪大) 末原 則幸

① 転座保因者の男女別は、女性が10例、男性が5例でした。

② 当科の遺伝外来を受診した者はほとんど染色体検査を行いました。

254. コンピュータによる骨盤レントゲン写真の画像処理 (筑波大)

久保 武士, 佐々木純一, 飯島 恒
木村まり子, 柴田 治郎, 目崎 登
伊藤 俊一, 岩崎 寛和

目的: 骨盤の広さを表わすパラメータはレントゲン写真上色々と定義されているが、骨盤の形態如何によつては児頭が通過する際に利用できる広さを必ずしも正確に反映していない。写真から骨産道上の各点における広さや産道の特徴点を計算機で求めてディスプレイ上に表示するシステムを作ること、及びこれによる骨産道の解析が研究目的である。

方法: グッドマン写真像を画像情報入力装置を使つて計算機に入力し、この情報から以下の画像をディスプレイ上に出力させる。1) 恥骨結合内面及び仙骨内面に同時に内接しつつ下降する円の中心の軌跡。2) 入口面から軌跡上の任意の点迄の軌跡に沿つた距離を横軸に、その点における内接円の半径を縦軸に表わしたグラフ。3) 2)と同様な方法で表現した軌跡の曲率。4) 産科的真結合線値。5) 骨盤最小前後径使用した計算機はYHP 2108画像情報入力装置はテクトロニクス社製グラフィックタブレットである。270枚のグッドマン写真をこの手法で分析した。

成績: この方法で写真の画像処理を行なうと骨産道上の狭窄部位は一目瞭然となる。鉗子吸引分娩となつた群